



Asian History

東洋史学専修

中国・日本を含む東アジア・海域アジア、中央ユーラシア（北アジア・中央アジア）世界の歴史を扱います。特に、中国古代～中世（南北朝～隋唐）の宗教史・対外関係史、近世～近代（元・明・清・民国）の政治史・社会経済史・法制史、6～14世紀のトルコ・モンゴル諸民族史、ベトナムを中心とする東南アジアの近世・近代史を主な領域として、文字通り世界レベルでの競争に伍すべく研究を重ねています。諸言語文献資料の厳密な読解に立脚しつつ、フィールドワークの成果を重視するのも本専修の特徴です。

学部2年次には、領域を限定せず、広くアジアや歴史全般への眼を開くとともに、前近代のユーラシア東方地域の研究に欠かせない漢文史料の読解の基礎訓練を行います。3年次からは重点的に学習する分野・テーマを絞り、関係する分野の史料（漢文・トルコ語・モンゴル語など）や外国語研究文献（主に英語）を講読する演習を通じて専門性を深め、4年次に提出する卒業論文へと結びつけます。また、研究室全構成員が分野を横断して議論する合同演習での研究報告作業を通じて、幅広い視野に基づく論理的思考やコミュニケーション能力など、学問の場を越えて通用する能力を身に付けることも目指されています。本当の学問は苦勞も多いが実に楽しい、ということを感じてもらえるよう、熱心に指導します。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/main/>

<https://twitter.com/handaitoyoshi> (twitter)

教員

つつみ・かずあき
堤一昭 教授
まつい・だい
松井太 教授
たぐち・こうじろう
田口宏二郎 教授
かわかみ・まゆこ
河上麻由子 教授
たが・よしひろ
多賀良寛 准教授
しげのぶ・あゆみ
重信あゆみ 助教

何を学んでいるの？

アジア史学基礎A

中央ユーラシア草原地帯の遊牧民の歴史を中心として、ユーラシア世界史の全体的な展開を理解する

アジア史学基礎B

異文化理解の一環として中国の歴史をとりあげ、その文明・政治・社会・経済・思想に関する基本知識を修得するとともに、特に近世・近代史の諸事象から今日の中国理解のためのヒントを得る

どんな授業があるの？

[講義題目]

中国古典籍概論
中国経済史
東アジアジェンダー史概論
東南アジア史概説

[演習題目]

東洋史学合同演習
漢籍基礎講読
古代トルコ・モンゴル文献学演習
東南アジア史英語演習

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

明清期の福建における上元節祭祀と基層社会

明清福建の都市に関する祭祀記事からみえる、人的組織および空間的編成という面から、議論を展開することを試みた卒論。とりわけ「境」「社」という用語が、各種の社会的層次に跨る実体を名指すものであり、福建一省だけでも数多くの祝祭空間のバリエーションがあることを解明した点、出色である。(選：田口宏二郎教授)

[卒業論文題目]

南宋期の訟師について
元の南海貿易について
高麗史に見えるモンゴル牒文の研究

東洋史学の授業

当研究室では、先生方の最新の研究に触れることのできる講義のほか、さまざまな言語の史料を講読するゼミがあります。東洋ことアジアは広大なので、興味関心に応じて、さまざまな時代のさまざまな言語を使って研究することができます。学生の中には、「史料の細部に目を配るので、就職活動でも役に立った」と話してくれた人もいました。もうひとつ授業で重要なのは研究発表ゼミである合同演習です。発表内容はそれぞれが研究する広大なアジアのどこかの時代。毎週、知らない時代・地域の研究を聞いて、質疑応答で議

論を行います。「その議論の中で、自分の専門外の時代・地域に関する事項も、自分の研究に引きつけて考えられるようになった」と話してくれた学生もいました。また、多様な言語を使うのでプリントアウトがうまくいかず、文字化けだらけの資料で発表した強者も…。

留学・海外調査の機会

外国史を学ぶ魅力のひとつは、日本では考えつかないような歴史の展開や文化そのものを知ることにあります。日々の学びの中でももちろんその魅力に触れることができますが、東洋史学研究室では、留学経験で身を持ってその魅力を知ることも推奨

しています。留学先として一番多く選ばれるのは中国ですが、ベトナム・タイ・モンゴル・ロシア・イギリスなど、さまざまな国にこれまで学生を送り出してきた経験があり、**留学希望者をバックアップする体制が整っています**。海外からの留学生も研究室に在籍してしますので、身近で語学を磨くこともできます。さらに、大学院生以上になれば現地調査で得た発見をもとにして研究を進めていったり、国際学会で発表することもできます。



幅広い立場の人に開かれた研究室であり続けることを重視しています。

研究室の生活

東洋史学研究室では、日々の生活でも幅広い立場の人に開かれた研究室であり続けることを重視しています。研究書や史料が豊富に揃った研究室では、学部生も大学院生も、卒業生・修了生も、来た人は誰でも肩を並べて研究活動を行うことができます。そのため、さまざまな立場・年代の先輩と知り合うことができます。研究に関わる話を聞けるのはもちろん、研究室の過去の逸話で盛り上がることもあります。そうした触れあいの中から、授業の枠を越え、研究室の学生同士による自主的な勉強会も開催されています。さらには、毎

年春と秋、学園祭の時期に研究室対抗のソフトボール大会も開かれます。そのときには学生だけでなく、卒業生・修了生も、教員も参加して熱闘を繰り広げます。

未来の後輩へのメッセージ

ひとつひとつ時間をかけてじっくりと考えるのはとても楽しいことです。これまで習ってきた歴史の教科書から一歩進んで、新しい発見をする知的興奮を一緒に味わいましょう。アジアの歴史を語らずして21世紀は語れません。待ってます！

